

大学名：京都外国語大学

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	本年度は新たにユネスコスクール加盟を希望する学校からの相談はなかった。しかしながら、2021年度に広島県にある盈進中学高等学校の加盟申請支援を行い、チャレンジ期間を経て、無事キャンデデート校に認定されたことから、その後、2022年度は同校に対して出張講義及び京都でのイングリッシュキャンプを実施しさまざまに交流を行った。
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	2022年度は以下の支援を中心に行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・京都府立西乙訓高校 出張講義を行い、SDGsをテーマとする探求学習の支援を行った。 ・京都外大西高等学校 留学に関わる説明会を開催した。SDGsに間するゼミ講義を行った。 例年実施の関西高校模擬国連大会の支援を行った。 ・奈良育英高等学校 京都外大体験キャンプの実施を通してSDGsに関する学習を提供し支援した。
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	ESDに関連する専門分野の教員が、上記のユネスコスクールに対して出張講義を行ったりフィールドワークを実施することができた。
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	コロナ禍以前では京都のユネスコスクール高校と大学との交流で上賀茂神社においてESDに関する行事を実施していたが、コロナ禍が続く本年度までは会場の都合もありオンラインだけの会議となっており、次年度は再開予定である。
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	国内外の地域コミュニティとの協働・連携を通じて、共通する課題解決に取り組む本学のプログラムとして、奈良育英中学高・高等学校や京都外大西高等学校、盈進中学高等学校と連携し、高大連携教育プログラムである英語キャンプを開発発展させている。
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることが	地域のステークホルダーに対してのユネスコスクールの認知活動については、現在、模索中であり十分な活動とならなかった。

進めます。	<p>できた。</p> <p>2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。</p> <p>3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。</p>	<p>SDGs に積極的に取り組む地域の企業、博物館、寺社、団体等の協力を得て高大連携教育を実施することで、SDGs への理解を深めることができた。</p> <p>2022 年度よりオブザーバー参加されている龍谷大学とユネスコスクール支援について地域のユネスコ協会を通して意見交換を行った。</p>
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	<p>1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた</p> <p>2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。</p> <p>3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。 (例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)</p>	<p>地域をこえた国内外のステークホルダーに対しての新たなユネスコスクールの認知活動については実績がなかった。</p> <p>ユネスコスクールである玉川大学教育学部の学生やユネスコクラブの学生たちと、本学の大学生および留学生が、多文化共生に関する交流を前年度に引き続き行っている。 高大連携教育として以下の学習を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に関連する出張講義 ・英語キャンプの実施 ・京都外大体験学習の実施 <p>高大連携教育プログラム「英語キャンプ (Camp Pax Mundi)」は、SDGs についてオールイングリッシュで学習するプログラムであり、ユネスコスクールのグローバルな活動に向けた支援となっている。</p>
その他の活動	<p>1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。</p> <p>2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。</p> <p>3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。</p>	<p>上記の行事やプログラムなどについて大学内で広報をしている。</p> <p>教育課程で直接の教育は現在のところ行っていない。</p> <p>玉川大学教育学部と本学の学内共同研究「グローバルマインドを育てる文化多様性/多文化共生教育の構築に向けて」を昨年度に引き続き進めることができた。本研究では大学間交流と協働による課題探求や解決への可能性を追究している。</p>

	4. 自由記述	<p>将来の日本における多文化共生社会の実現および平和の教育の一環として、本学の日本人学生と外国人留学生および海外にいる国際交流校の学生たちとのオンラインによる参加型共修行事を定期的で開催している。特に日本およびアジアの視点からの議論を重ねており、学内共同研究の教員の主導のもとに実施している。2022年度の活動実績は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none">•「国際 NGO と避難民—アジアから平和を考える—」を開催 学生たちは現場に長年携わる NGO 職員の講演を聴いたのち、グループに分かれてディスカッションを行い発表した。•「多文化共生社会の実現に向けて—日本における技能実習生を考える—」を開催 本学学生による講演と支援団体職員の講演を聴いたのち、参加学生たちは課題やさまざまなポジティブな可能性について議論を行った。
--	---------	--